



昭和36年1月15日発行 (毎月15日) 第20号

群馬県甘菜郡甘菜町 大字小橋甲852 44 甘菜町役場電話(小橋)44 編集総務課広報係 印刷所誠確堂印刷所

12月の動態 人口 14,944 人 男 7,169 人 女 7,775 人 世帯 2,685 世帯 転入 25 人 転出 34 人 出生 20 人 死亡 14 人

一、保険税 第六期

納期内完納は、奨励金がある、延滞金をとられない、いちばんとくです。

昭和34年度の決算承認さる

歳入 六千四百六十九万四 歳出 六千八百七十七万四千

昭和34年度の町議会で、甘菜町はじめての昭和34年度歳入歳出決算が承認されました。その決算は、歳入六千四百六十九万四千、歳出六千八百七十七万四千となっております。

一般会計

昭和34年度予算は、合併初年度のもので、内容は、旧町村より引き継いだ事務事業など未処理分も合わせて行ないました。当初の予算額には追加約一千二百三十八万三千円がなされ、最終予算額は七千八百六十六万三千六百円、これに対する収入総額は六千四百六十九万四千五百八十八円、支出総額は六千八百七十七万五千二百三十三円となり、差引残額約三百八十八万三千円が昭和35年度予算に繰越されました。

歳入

歳入総額の四〇%余をしめる最も重要な財源であります町税は、その収入額、収入率等は別表のとおりです。これを県、郡などに比較すると、郡では第二位、県下七市町村のうち第一位、また、収入率をみると本町は九三・八%で、県下町村平均八四・八%をいずれも大きく上回っており、非常に良好な成績です。これを前年度(33年度)と比較しても別表のとおり各税目ともに上昇しており、よるこぶべき傾向です。ただ、残念なこと、現年度分は非常に良いのですが、滞納繰越分はともな納入が悪いので、関係者の一段のご協力がのぞまれます。この

歳出

旧町村から引き継いだ災害復旧事業及びその後、本町で計画

年頭への所信

奥地開発に期待する

町長 斉藤 八郎



鶏鳴曉を破つて訪れた昭和36年の輝かしい年頭にあら

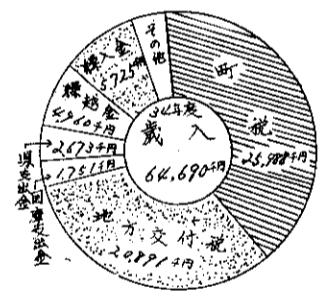
皆さまでともにお喜び申し上げることが出来ます。この上もないしあわせと存じます。祖國の隆盛と、新町甘菜町発展の指針を示す日の丸の旗は、町のすみずみまでなびき渡り、言い知れぬ感激と喜びにみちて、ここに二度目の正月をお迎えいたしました。その歩みのなかに、いつもご理

解と、ご協力をくださる皆さまでに、重なる敬意と感謝の至念を捧げるものであります。ことしは、築かれつつある基礎の上に、皆さまでご期待にそむかぬよう、最善を尽くしたい覚悟です。まず、建設計画では、既設計画の完成はもちろん、万場の奥地の開発、昨年足らぬ状態であった地方開発の根幹をなす、川水利土地改良国営事業に明るい見とおしをおぼえ、これに努力を傾注したい。教育施設、社会福祉、また、産業経済、あわせて農業災害

旧町村から引き継いだ災害復旧事業及びその後、本町で計画の保護育成を強化し、青少年の実質指導のため体協の健全なる発展に期待をかけ、婦人の地位と教養の向上に力をそそぎ新生活運動の実践のために皆さまでご協力をねがうてやみません。国有林の払い下げも、新春に解決の見とおしです。また、うちにあつては全職員がこれに呼応し、和の表徴の師範となり、全力をあげて奉公の至誠をたぬく覚悟です。いまや、社会経済の様相が大きく変わり、これにともない工場誘致、既在工場の開発に協力し、社会の進運におくれざるよう最善をつくしたいと考えます。ここに、陽々たる年頭にあり、私の所信を申し上げさせていただきます。皆さまでご多幸を祈念いたします。

昭和34年度一般歳入歳出決算表

Table with columns for '歳入' (Revenue) and '歳出' (Expenditure), listing various categories like '町税' (Municipal Tax), '地方交付税' (Local Allocation Tax), and '歳入歳出' (Revenue and Expenditure) with amounts and percentages.



し、実施した事業について申し上げます。道路関係では、国庫補助対象もふくめて改修・復旧工事を延長千四百メートル余行ない、金額三百九十二万七千円、橋梁関係では、六橋梁延長三十七メートル余(金額七十四万四千円)の事業をしました。また、これらに付随する用地及び県道改修にもなる用地四反三畝二歩の買い上げ、及び移転・取りこわし家屋等の補償費。河川関係では、白倉川の改修にもなる潰地一反四畝十二歩の補償費等、その他、福島地区金井地区の県道舗装工事等の県営事業促進のための寄附金など合計五百七十四万四千円を支出しました。

社会及び労働施設費では、要保護世帯・準要保護世帯の緊急保護費八万円を支出、敬老年金では、85才以上の老人三四名に十三万二千円(一人三千元)を贈呈、小橋・福島地区、けら入る前の幼児二〇名を収容し大いに効果をあげ、関係者に喜ばれています。その他、民生委員の事務委託費、防犯委員会費、社会福祉費、国民年金取扱費をあわせ二百六十一万一千円を支出しました。

昭和34年度の町税収入状況

Table showing the breakdown of municipal tax revenue for the fiscal year, including categories like '町民税' (Municipal Resident Tax), '固定資産税' (Fixed Asset Tax), etc., with amounts and rates.

公債費は、長期借入金一千三百百万円の本年度償還すべき元利金です。諸支出金では、徴税、滞納整理及び前納、完納、納税組合長の表彰等の諸経費七十五万七千円を支出し、国民健康保険会計へ六十万円を繰り出し、広報紙「甘菜町報」の発行費九万四千円、生活改善の一つとして冠婚葬祭の簡素化を図るため三万六千円を支出して、諸準備をしました。

以上が34年度の事業とその収入支出です。別表の決算数字をみながらご理解いただけることを信じます。35年度は、この基礎の上に立って、町発展のために努力していきます。特別会計は裏面にあります。

環境衛生費は、夏季の伝染病予防を主眼として七回にわたる薬剤散布を全町一斉に行ない、「ハネ」「カ」の絶滅を図り、環境衛生の向上を図りました。また、伝染病患者が一〇名発生し、これらの経費及び維持費もふくめて三十六万八千円を支出しました。結核予防対策としては、定期健康診断(ツベルクリン接種三五三九人、レントゲン撮影六、一三八)及び定期予防接種(BCG接種二一五五人)を行ない、種痘、胸バラ、ジフテリア等延べ五二四〇人に予防接種を行ないました。産業経済費では、農業振興のための諸事業に二百九十七万四千円の補助をしました。すなわち、水稲施肥改善試験、品種改善試験、こんにやく品種生育試験、飼料特用作物、ペントナイト使用、畜産関係、伝染病予防等その効果はみるべきものがあります。また、商工会へ十七万七千円、農業共済組合へ八十五万七千円、農業協同組合へ四十五万七千円を補助しました。このほか、農地三百町歩を対象にその集団化を図るため調査費二十七万九千円を支出し、林業関係経費として

て十七万七千円を支出しました。財産費は、町有林のぶ育費等十九万三千円、町有の貸付住宅等の修理費、町有の建物の火災保険加入額一億八百九十一万一千円に対する保険料二十六万七千円を支出しました。町内中小企業の振興を図るため、県と提携して三十万円を金融機関へ特別寄託し、いっそうの融資の促進を図るため支出しました。このほか、白倉巡査駐在所に於てある建物老朽化し、また、不適当な位置にあるので、補助を受けて金井へ新築しました。統計調査費では、主として農林統計調査を夏期と冬期の二回にわたり調査員六三名が農家千八百四十二世帯を対象に千四百七十二町歩の耕地、二万三千三百二十一の家畜、その他、世帯員、農機具、山林等について調査を行なった経費です。選挙費は、県議会議員選挙、参議院議員選挙を執行した諸経費です。